

2024 年度

西区 靱公園周辺エリア

わたしたちの '生きた建築'発見プログラム



大阪市では、大阪のまちを1つの大きなミュージアムととらえ、そこに存在する「生きた建築」を通して見えてくる、多様で豊かな都市の物語を大阪の新しい魅力として創造・発信する「生きた建築ミュージアム事業」に取り組んでいます。その一環として、参加者ご自身が実際に講師と一緒にまちを歩き、自分なりに感じた生きた建築の魅力を、他の参加者に伝え、共有化する「わたしたちの生きた建築発見プログラム」を実施しています。4回目の開催となる今年は、西区の靱公園周辺エリアにある戦後ビル※1に注目したまちあるきを行い、参加者それぞれの切り口で西区の多様な魅力を語り共有しました。

(※1 戦後高度成長期に建設された小中規模のビル)



日程・場所		スケジュール	
まちあるき	2024年11月17日(日) 集合:西船場会館	13:30~14:00	オリエンテーション
		14:00~16:00	まちあるき
		16:00~16:30	今後の進め方
意見交換会	2024年12月15日(日) 会場:江之子島文化芸術センター	13:30~15:00	発表
		15:00~16:00	意見交換
		16:00~16:30	講評



4 回目となる今回の開催で初めて、まちあるきのテーマが設定された。「戦後ビル」というのがそれであり、高度経済成長を中心に従来は木造だった商店兼住居が鉄筋コンクリート造に建て替えられていく。そんな時代の社会的、技術的な背景が刻まれた建築である。これまで光が当てられてこなかった建築を詳らかにし、大阪らしさの一つとして見直していくことにも「わたしたちの生きた建築発見プログラム」が寄与するに違いない。そう思わせる発見的な成果だった。

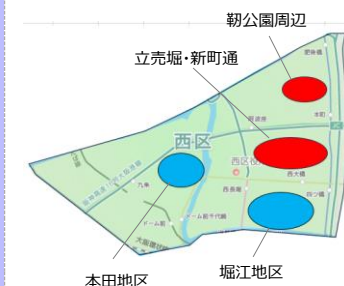
講師：大阪公立大学教授／建築史家 倉方 俊輔 氏



今回は残念ながらまちあるきには参加できなかったのですが、都心にも関わらずまだまだ古い建物が多く残る西区の西本町界隈ということで、参加者の皆さんの発表も非常に充実していました。ひとつひとつのビルは違うけれども、どこか少しずつ似た要素を持っていて、それらが集積することで街全体のイメージが形成される。皆さん発表の視点は異なっていますが、少しずつ重なり合っている、街の印象そのままのそんな発表が大変興味深かったです。

講師：近畿大学教授／建築家 高岡 伸一 氏

エリア



参加者

4名
大阪市にお住まいもしくはお勤めの方々。皆さん建築にご興味があり、本プログラムに参加いただいた。

西区で発見した、わたしたちの生きた建築（参加者の発表から）

発見した生きた建築について、4つの視点から紹介します。

●建物のデザイン

戦後ビルらしさ



外壁に用いられているタイルやサインのフォントに往時の雰囲気を感じる

統一感



右:Google Map より

隣接している建物同士で統一感がある

リノベーション



最初から室外機がそこにあったかのようなデザインが面白い

●窓のデザイン

時代による違い



戦前に建てられた北館(左)の窓枠のほうが南館(右)よりも細くすっきりしている

配置の違い



水平連続窓と独立窓が混在しており、面白い

窓枠



窓枠のデザインがチャームな建物が多い

●敷地環境

角地建築



西区は角地建築が印象的で、「隅切」、「曲面」「入隅」の大きく3タイプがみられた

狭小敷地の建築



全体的に狭小な敷地が多い地域のため、建物の形態が敷地の形状の影響を受けている

●地域の歴史

西区と高知



周辺には高知県に所縁のある地名がみられるが、「龍馬がゆく」が連載された頃、司馬遼太郎が西長堀アパートに住んでいたことも面白い

区画整理と隅切り



西区では戦後の土地区画整理事業により角地に隅切りが設けられ、御堂筋を挟んで反対側の船場エリアよりも隅切りの箇所が多く見られた